

議 事 日 程 (第 5 号)

令和 8 年 3 月 5 日 (木) 午前10時00分開議

日程第 1

一般質問

- | | | |
|------|--------|------|
| 質問順序 | 1. 5 番 | 柴田一雄 |
| | 2. 3 番 | 寺田 悟 |
| | 3. 2 番 | 山本晃子 |
| | 4. 14番 | 竹内祐子 |

- | | |
|--------------------|---------------|
| ○本日の会議に付した事件 | 議事日程に掲げた事件に同じ |
| ○出席及び欠席議員 | 出席表のとおり |
| ○説明のため出席した者 | 出席表のとおり |
| ○職務のため議場に出席した事務局職員 | 出席表のとおり |

午前10時00分 開議

○議長（神谷里枝） ただいまの出席議員は18名です。定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

本日は傍聴席へ報道機関が入っております。撮影を許可した者には許可証を交付しておりますので、御報告いたします。

本日の議事日程はお手元に配信のとおりでございます。

○議長（神谷里枝） 日程第1、一般質問を行います。

3月4日に引き続き、一般質問を行います。

本日の質問順序は、受付順により、1番、柴田一雄議員、2番、寺田 悟議員、3番、山本晃子議員、4番、竹内祐子議員と決定いたします。

初めに、5番 柴田一雄議員の発言を許します。

それでは、5番 柴田一雄議員。

〔5番 柴田一雄登壇〕

○議長（神谷里枝） はい、柴田議員、どうぞ。

○5番（柴田一雄） おはようございます。5番柴田一雄です。通告書に従いまして一般質問をさせていただきます。

主題は、市長施政方針についてでございます。

質問しようとする背景や経緯ですが、市長施政方針では、人口減少の進行、財政需要の拡大、公共施設の更新や大型事業の推進など、多くの行政課題が同時に進行している状況下において、市民満足度の向上と財政運営の健全化を柱とし、限られた財源の中で施策の優先順位を慎重に見極めながら市政運営を進めていく方針が示されました。

質問の目的ですが、市長施政方針において複数の項目で述べられたDX、AIを活用した教育、まちづくり、行政経営について、並びに、地域経済と観光の活性化について内容を確認いたします。

質問事項に入ります。

○議長（神谷里枝） はい。

○5番（柴田一雄） 実践計画のテーマを「魅力ある湖西市を子どもたちへ～次世代へつなぐチャレンジ～」と定め、施策を進めていくと方針が示され

ました。施政方針では、複数の項目でDX関連の施策について述べられております。「市民向けサービスのDX」をどのように位置づけ、単なるデジタル化にとどまらず、市民の利便性向上や業務効率化、財政健全化にどのようにつなげていくのか、具体的な方向性をお伺いいたします。

○議長（神谷里枝） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） お答えします。

「市民向けサービスのDX」は、これからの人口減少社会において、行政の質を維持・向上させるための基盤であると位置づけています。

本市は「暮らしやすさの向上」と「元気なまちの実現」を柱としております。その実現に当たっては、市民の利便性向上を、限られた財源と人員の中で進める必要があります。業務の進め方そのものを見直す必要があります。DXはそのための手段となり、単なるデジタル化だけではなく、市民の手続負担の軽減と行政運営の効率化、職員が政策形成や市民対話に時間を充てられる体制づくりを同時に進める取組となります。

施政方針で触れたAIの活用も、その具体的な方法の1つであり、持続可能な行政経営を実現するための手段として活用してまいります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 柴田議員。

○5番（柴田一雄） 方向性についてよく理解することができました。

それでは、次の質問に入りたいと思います。

○議長（神谷里枝） はい。

○5番（柴田一雄） 当市におきましては、令和3年2月12日に人口減少対策、産業の活性化などの地域課題の解決や社会の変革に対応するとともに、市民の皆さんが便利さを実感し、市民に寄り添ったサービスを提供するため、AI、ICT等のデジタル技術を最大限活用するデジタルトランスフォーメーションを推進し、職住近接の実現と持続可能なまちづくりを目指すことを宣言しますと、こちらは前市長自らが近隣市町に先立って行政のデジタル化を推

進する湖西市デジタルファースト宣言を行いました。

この宣言に伴い、市民向けサービスのD X推進、行政運営のD X推進、D Xを実現するための環境整備の3本の柱となるD X推進方針が定められています。

デジタルファースト宣言から5年が経過し、職住近接の実現というテーマからは変更になっております。当初掲げた方針及び3本の柱について、これまでの成果と課題をどのように総括し、今後どのように位置づけていくのかをお伺いいたします。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

令和3年のデジタルファースト宣言以降、本市ではD X推進計画に基づき、行政手続のオンライン化や内部事務の効率化などを進めてまいりました。

宣言で掲げた主な取組については、おおむね実装が完了するなど、一定の成果は着実に現れていると認識しています。こうした状況を踏まえ、デジタルファースト宣言は本市の基本姿勢を示す理念として今後も維持し、その理念を具体化する実行戦略としてD X推進計画を位置づけています。

一方で、デジタル分野は技術革新のスピードが非常に速い分野であることから、本市では当初より、計画を固定的なものとせず、定期的に見直す運用を前提として設計し、現在も半年ごとに計画の見直しと更新を行っています。

今後も、社会情勢や技術動向の変化に機動的に対応し、市民サービスの向上と持続可能な行政経営を進めてまいります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 柴田議員。

○5番（柴田一雄） 技術革新のスピードが非常に速いという分野でありますので、半年ごとに計画の見直し・更新が行われているということで理解をいたしました。

1つ、推進体制の確認でございますけれども、デジタルファースト宣言に伴い、市長を本部長としたD X推進本部が組織され、市長主導で計画策定から進捗管理、部局間調整までを行う構造になりましたが、現在、市長を中心としたD X推進本部の推進体

制はどのようなになっているのか、確認をお願いいたします。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

推進本部はデジタルトランスフォーメーションを一体的かつ総合的に推進するために設置したものであり、所管事務として施策の検討及び実施、D X推進計画に関する事項並びに総合調整を担っております。具体的には部局横断的なデジタル化を伴う業務改革について、本部会議で方向性を確認し、承認の下でプロジェクトチームを設置し、具体化を進める体制としております。

最終的な契約や文書管理システム導入、予算執行などの法的意思決定については専決規則に基づき、適切な決裁区分で処理されますが、D Xの基本方針や重点事業の優先順位づけは本部会議において整理し、市長が責任を持って統轄しております。

したがって、本部会議は単なる情報共有の場ではなく、全庁的な方向性を定める戦略的意思決定の場として機能しております。

少し追加をさせていただくと、この推進本部会議でございますが、やはり私も市長としてももちろん全庁的な方向性は定めてはおりますが、ただ、今もう私もD Xの部門、勉強中でございますが、やはり現場で最前線で頑張っている職員が非常に知識もありますし、勉強もしておりますし、対外的に見ても湖西市役所のD X推進課に関しましては、いろいろな雑誌で取り上げていただいたりですとか、非常に私は評価をされていると思っております。ですので、比較的推進本部会議におきましても、やはり現場からこういうことに取り組みたいですとか、こういうことにチャレンジしたいというお話が上がってきておりますので、それをやはり私たちがしっかりと理解をして、追認をするということも多々行われておるところでございます。

ただ、繰り返しになりますが、その全庁的な方向性、例えば先ほども答弁をしましたが、やはり業務をまずしっかり見直してからのデジタルだと思っております。だからデジタルを使うことが目的になってはいけませんよねというようなことも申し上げ

てますし、あと今後はやはりデジタルの使い方、特に生成ＡＩの使い方に関しましては、やはり例えば職員もしっかりと政策について考えるんですけども、やはり生成ＡＩにいきなり、じゃあ例えば湖西市の観光施策、これからどうしたらいいですかと言って、いきなり生成ＡＩに投げるといようなことは、やはり私はよくないと思っております。やはり自分の頭でしっかり考えて、自分の足でしっかりいろいろな方と話して、聞き取ってからちゃんとしっかり政策を考えてＡＩに、コンサルタントに相談するような形でＡＩを使ったり、そういったやはり使い方というのはこれからやはり考えていかなければいけないかなと思っておりますので、そういったことも推進本部会議でこれからしっかりと議論をして、とても効果のある生成ＡＩの使い方等を考えていきたいと考えております。

以上です。

○議長（神谷里枝） 柴田議員。

○５番（柴田一雄） ありがとうございます。組織体制、しっかり維持しながら、全庁的にしっかりと戦略を持って意思決定されてるということで安心をいたしました。

それでは、次の質問に入りたいと思います。

○議長（神谷里枝） 最後ですね、はい、どうぞ。

○５番（柴田一雄） 地域経済と観光の活性化についてでございます。施政方針の中では、関係者間の連携強化が掲げられております。具体的には、行政、商工団体、観光事業者、農水産業者、民間企業など、どの主体と、どのような役割分担の下で連携を図ることを想定されているのか、お伺いいたします。

併せて、その連携が単発の事業にとどまらず、持続的な経済循環や雇用創出につながる仕組みをどのように構築していくのか、お伺いいたします。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

現在、市をはじめとして商工会や商店街組合、民間事業者、金融機関などが、おのおの町なかのにぎわい創出や地域の魅力向上を目指した様々な取組を行っており、一定の成果が上がっております。

こうした取組を生かしつつ、関係者が効果的に連

携・連動できるようにすることで、持続的ににぎわいの創出を目指すため、地域おこし協力隊制度を活用した各関係者のハブとなる人材の育成や、創業希望者を適時に適切な協力者につなげられる体制の構築などを行いたいと考えております。

将来的には、商業者のみならず、各分野とも連携を強化することで、さらなる地域経済の活性化を図ってまいります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 柴田議員。

○５番（柴田一雄） 関係団体との連携ということで、経済循環につなげていくということでイメージは理解することができました。

１つ確認をしたいのですが、当市におきましては、それまで別々に存在しておりました新居町観光協会と湖西市観光協会が令和４年４月１日に統合され、一般社団法人湖西・新居観光協会として運営されております。この観光協会の位置づけ、連携はどのようになっているのか、確認をさせていただきます。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） 柴田議員、もう一回、質問の意図を確認なんですけれども、市と現在の観光協会の連携がどうなってるのかという御質問でよろしかったでしょうか。

○議長（神谷里枝） 柴田議員。

○５番（柴田一雄） 市と現在の関係、また今後、さらなる発展、検討されていることがあればお聞かせ願いたいと思います。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。湖西市と観光協会の関係におきましては、私も永田会長ともお話を定期的にさせていただいておりまして、連携はしっかり取れておると感じておるところでございます。

今後に関しましては、ただ、観光協会のやはり在り方というのは模索をしていかなければいけないと考えております。例えば私の中で経験上、ここの観光協会はすばらしかったというところは、例えば宮崎県の高千穂観光協会という観光協会がございます。

そこは自らの事業で全てお金を回しています。行政から1円たりともお金をもらっていないというような観光協会もありますので、やっぱりそういった観光協会も目指しながら、これから構築をしていく必要もあるかなと考えておりますので。そこはただ、私たち市長部局がこうだと決めるわけではなくて、観光協会ですとか、あとは関係してくる商工会ですとか、そういった皆さんとしっかりと話し合いをしながら、じゃあどういう観光協会がいいのかということこれから方向づけていきたいと考えております。

以上です。

○議長（神谷里枝） 柴田議員。

○5番（柴田一雄） 市長のお考えをしっかりと理解することができました。ありがとうございます。

以上で私の質問は終わりになりますけども、本日は市長の力強い答弁をお伺いできて安心したところでございます。本市のさらなる発展と市民一人一人の幸せのために、市長のこれからのかじ取りに大いに期待をして、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（神谷里枝） 以上で5番 柴田一雄議員の一般質問を終わります。

○議長（神谷里枝） 次に、3番 寺田 悟議員の発言を許します。

3番 寺田 悟議員。

〔3番 寺田 悟登壇〕

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） 3番 寺田 悟です。一般質問、施政方針について一般質問させていただきます。

質問しようとする背景や経緯。湖西市では、第6次総合計画第Ⅱ期実践計画の中間見直しにおいて、人口減少対策、地域福祉、防災力強化、教育環境整備など将来を見据えた施策の検証が進められました。

令和8年度予算案では「魅力ある湖西市を子どもたちへ ～次世代へつなぐチャレンジ～」を理念に掲げ、「暮らしやすさの向上」と「元気なまちの実現」を重点に、防災・減災対策、観光振興、子育て・教育環境の整備、地域医療・福祉の充実、公共交通など多岐にわたる事業が計上されました。

特に、災害発生時の避難所となる小中学校体育館への空調整備、駅周辺エリアを中心とした町なか活性化、新居関所周辺を観光拠点とした観光振興、「乳児等通園支援」や「発達支援事業の拡充」などの子育て支援、湖西病院を中心とした地域医療の充実や福祉支援体制づくり、公共交通の充実といったテーマは、市民生活に直結し、総合計画・公共施設マネジメント・予算、これらを横断する重要な課題と考えます。

そこで、市長の市民目線を大切にする全体の調和や長期的視点を踏まえた判断による施政方針と令和8年度予算案の位置づけを確認し、今後の市政運営の方向性を市民に対し丁寧に説明していただきたく質問いたします。

質問の目的。市長の施政方針の考えを明らかにするためです。

質問に移ります。

○議長（神谷里枝） はい、どうぞ。

○3番（寺田 悟） まず、人口減少対策である「移住・定住補助金制度」の廃止について伺います。

湖西市の補助金制度は、近隣他市町と比較して充実しており、この補助金制度を利用して移住・定住した方々が多くいると認識しています。

制度を残した上で、湖西市に住み続けたいと思ってもらえる新たな施策を行う方法もあると考えますが、補助金という直接的支援から、湖西市全体の魅力向上による移住・定住促進へと政策転換するという充実した既存制度を廃止してまで行う新たな定住促進施策へのお考えとその効果の見込みを伺います。

○議長（神谷里枝） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） お答えします。

議員御認識のとおり、これまで「職住近接」の考えの下、本市は補助金による直接的な移住・定住促進策に取り組んでまいりましたが、これからは市全体で「暮らしやすさの向上」と「元気なまちの実現」につながる施策を着実に進めることによって、「住みたい」「住み続けたい」という移住・定住の後押しをしていく方針です。

「新たな定住促進施策の考え」というものが「新たな補助制度の新設」ということでございましたら、現在のところ直接的な補助制度の新設によるインセンティブを設ける予定はございません。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） 今後については、直接的な補助金制度は新たには設けないということはよく理解しました。それでプロモーションとか、そういった市の魅力を向上させるという、そちらに力を注ぐということなんですけど、具体的に市長の頭の中ではそれをどのような展開にしていきたいというふうに考えておられるでしょうか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えをします。

まず、多分皆様もきっとそうだと思うんですけども、私は湖西出身ですし、湖西が大好きですので、もうずっと湖西に住むということ以外考えていないですし、もう地元が大好きなのでとても幸せでございます。ただ、私がそういった、何て言ったらいいんでしょう、どこにも住めますよと、もし湖西じゃないところに、どっか好きなところに住んでくださいと言われたときに、果たして補助金があるから、その市を選択するのかというところがまず、やはり補助金はあまり効果がないのではないかなと思ったところが、そういうふうに考えるようになった出発点でございます。

それで、やはりもう実際問題、例えば、今、新婚さんに補助金を出してたと思うんですけども、データによると約3年後には、もう約4割が転出をしましてしております。だから、こういうのを見てもやはり効果があまりない。やはり行政で比較的、何て言ったらいいんでしょう、無駄なものはないとは思っておりますが、ただ、やはり費用対効果の高いものに大切な税金を使わせていただくというのが主だと思っておりますので、実弾のようなお金の使い方に関しては、やはり見直すべきではないかなと思っております。今回のカットに至ったわけでございます。

ただ、将来的なことにしましては、やはり市民意識調査の話のところに戻るんですけども、湖西市

はやはり自然環境がいいというところで、皆さん住みやすいと思っていただいているので、やはりまずいいところ、自然環境をしっかり保全をして、利活用ということもこれから考えていきたいと思ひますし、また、やはり住みにくいと思うところを、今、市職員一丸となって、今、たたいているところでございますので、やはりそういったことをすることによって、トータルのまちとしての魅力が上がってきて、やはり湖西市に住みたいと思ひいただける市民が増えてくると予想していますので、そういったことに力を入れてまいりたいと思ひております。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） その補助金制度があるから直接、それを目当てに移住・定住してくるということは確かに少ないと思ひます。それはプラスアルファのことだと思うんですけども、でも、ないよりあったほうがいいということは確実に私も思ひております。

それで、その市長が、私の聞きたいのは、湖西市をよく知っていただくためのプロモーションビデオをつくるというような話もあったんですが、それだけではほかの市町もいろんなプロモーションビデオをつくって宣伝してます。ですから、湖西市はここが違うんだよというような何か、何ていうんですかね、そういったほかの市町とは違うようなこと。例えば、今、映画を、映画ですね、この湖西市を利用した映画とか、あとアニメとのコラボとか、いろんなことがあると思うんですけども、そういったことはお考えはないですか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。プロモーションについてということでございますけども、やはり今、もしこれで議案を通していただいたら、ちゃんと実行に移っていくわけでございますけども、担当職員の皆さんにちょっとお願いをしておりますのが、やはり例えば「食」を切り口にということで今回やっていきますけども、ただの食レポにならないようにはしてくださいとお伝えをしているところでございます。やはりショート動画とか、普通の動画もそうなんですけども、やはり動画とし

て面白いなと思っていただかないと、当然リールも回りませんので。やはりそういった意味ではしっかりいい意味で面白いものを提供してくださいと。そのクオリティーが高くなれば、自然とみる回数も上がってきますので、それでどんどんどんどん広がっていくようなことをこれから求めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） とにかく湖西市の魅力がよく広まって、世間に知っていただけるようにお願いしたいと思います。

じゃあ2番目に移ります。

○議長（神谷里枝） はい、どうぞ。

○3番（寺田 悟） 令和8年度の目玉事業として、災害時の避難所ともなる小中学校体育館の空調設備の整備を挙げています。一方で、学校施設長寿命化計画があり、計画的な改修とコストの平準化が求められています。小中学校体育館の避難所機能の強化、防暑・防寒対策、長寿命化計画との整合性、財政負担の最適化の観点から、空調整備を学校施設長寿命化計画と連動させて一体的に改修工事をする事で、財政負担の平準化や効率化を図れると考えますが、学校教育環境の整備及び防災・減災対策の中でどのような位置づけとして進めるのか、市のお考えを伺います。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

小中学校体育館の空調設備整備につきましては、本来であれば、学校施設長寿命化計画に基づき、大規模改修等の時期に合わせて一体的に整備を行うことが望ましいと考えております。これにより、工事の効率化や財政負担の平準化を図ることが可能となります。

一方で、現在、国において通常事業よりも交付率の高い臨時交付金が措置されており、その対象期間が令和15年度までとされております。本市といたしましては、この有利な財源を活用できる期間内に整備を進めることが、将来的な市の財政負担の軽減につながるものと考えております。

体育館は、平時においては児童生徒の安全で快適な教育環境の確保に資するものであり、災害時には避難所としての機能強化にも直結する重要な施設であります。避難所の災害時における良好な生活環境を確保するため、湖西市地域防災計画のほか、湖西市津波防災地域づくり推進計画においても空調設備の整備を位置づけておりますことから、教育環境の整備と防災・減災対策の双方の観点を踏まえ、財源の有利性を最大限活用しながら、着実に取り組んでまいります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） この小中学校体育館の空調設備整備には岡崎中学校の武道場や新居中学校の武道場、これも含まれるのでしょうか、伺います。

○議長（神谷里枝） 施政方針のところからちょっと踏み込み過ぎないように御配慮いただきたいと思います。

じゃあ教育次長。

○教育次長（鈴木啓二） では、すみません、私のほうからお答えをさせていただきます。

まず、3か年計画で、今回、学校体育館のエアコンを設置するという事で方針を決めております。その3か年計画においては、小学校、中学校の体育館。今、御質問でいただきました武道場につきましては、令和11年度以降どうするかということをこれから検討していきたいと考えております。避難所ということもありますので、その辺は危機管理部門と連携しながらしっかり検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） 今回は小中学校の体育館のみということで、武道場は含まれないということは分かりました。ありがとうございます。

よろしいですかね。

○議長（神谷里枝） はい。

○3番（寺田 悟） 各小中学校の体育館の建設仕様によって、設置する空調設備や断熱工法にも違いが出てくるとはと思いますが、その計画・設計段階にお

いて、議会と情報共有をしていただきたいと考えていますが、その辺はいかがですか。

○議長（神谷里枝） 答えますか。では、教育次長。

○教育次長（鈴木啓二） では、工事の内容ということですので、私のほうからお答えさせていただきます。

断熱工法なども来年度実施をいたします設計の中で決定をしていく予定です。そして設計を進めながら、また議会の皆様にも情報提供しながら進めたいと考えております。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員、お願いがありますけれども、やはりこれ、施政方針ということですので、あまり具体的な内容にまで踏み込まないように御配慮いただきたいと思います。また具体的なことにつきましては、予算審査等も控えておりますので、またそちらのほうで確認していただければと考えます。よろしくお願いいたします。

○3番（寺田 悟） はい、分かりました。

具体的なことは結構です。今の程度の情報共有をしていただきたいというお願いだけですので。

じゃあ3番目に移ります。

○議長（神谷里枝） はい、どうぞ。

○3番（寺田 悟） 市長は施政方針において、「にぎわい」の創出を挙げて、「市内のＪＲ３駅周辺エリアのにぎわい促進、エリア価値の向上を目指す」としています。また、総合計画では、鷺津駅周辺を「都市拠点」、新所原駅周辺と新居町駅周辺を「地域拠点」に位置づけて、都市機能の集約が示されています。市内ＪＲ３駅の駅周辺エリアの再開発可能性について市のお考えを伺います。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

十分に活用されてるとは言い難い既存の公的資産の活用などにより、駅周辺を「魅力的な店舗が集まり、市内外から多くの人が集い行き交うエリア」にすることがエリア価値の向上であり、私の目指すにぎわいの創出です。

ＪＲ駅周辺という交通結節点に立地している市駐輪場の土地は、「にぎわい」の創出に活用可能な公

的資産ではありますが、現状、そのポテンシャルが十分活用できてないと認識をしています。

民間との連携手法により、既存の駐輪場としての機能は確保しつつ、駐輪場の土地を最大限活用することで、官民がともにウィン・ウィンの関係となる、そういった事業展開につなげられるよう調査・研究に取り組み、駅周辺エリアのにぎわいの創出、エリア価値の向上を目指してまいります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） 3駅それぞれ立地環境や駅の利用者も違いますが、それぞれの地域に適したにぎわいやエリア価値というものを市長自身はどのように評価され、お考えなのか、そこを教えてください。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。まず新居地域に関しましては、今、答弁ではちょっと駅と周辺エリアということで申し上げましたけども、やはりメインは関所周辺と海湖館になるかなと思っております。そこ目がけて人が来ることによって湖西市全体に観光のお客様なり、ビジネスのお客様が散っていくといいかなと思っております。

ただ、やはり新居町の駅も玄関口でございますので、このリニューアルの仕方というのはこれから地元の皆様と一緒に考えていきますけども、やはり駐輪場、老朽化をしておりますので、その建て替えも含めてどういう活用するかというのはこれから考えていきたいと思います。やはり切り口としては文化・歴史、そういったものが切り口になるのではないかなと考えております。

また鷺津駅に関しましては、やはり湖西市の場所も中心でございますので、やはりバラエティーに富んだ飲食店なり、小売のお店が集積するということのにぎわいにつながっていくのかなと感じております。

また、新所原駅に関しましては、やはり湖西連峰の登山口の最寄り駅ということもございますので、やはり山を生かしたアクティビティー、アウトドア、そういったものを切り口に、やはり新所原駅の周辺もにぎやかになっていくとよいのではないかと考え

ておるところでございます。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） それぞれ3駅の特徴を生かした持続あるものにしていただきたいというふうをお願いいたします。

次の質問に移ります。

○議長（神谷里枝） はい、どうぞ。

○3番（寺田 悟） 次に観光について、「新居関所周辺を観光拠点として位置づけ、まちあるき観光案内所の本格運営に向けて手法や運営体制の調査・研究を進める」とのことですが、どのような観光拠点を目指すのか、方向性についてお考えを伺います。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

新居地域には、歴史的価値を有する新居関所をはじめ、新居弁天海釣り公園や海湖館、関所周辺には古民家カフェなど飲食店や商店も多数あり、観光資源としての潜在能力が高いものと考えております。

本年度、実証実験として湖西地域と新居地域の2か所にまちあるき観光案内所を設置し、来訪者に対してアンケート調査を実施しましたが、県内外から多くの観光客が新居関所を訪れていることが改めて確認できたことから、新居関所周辺に拠点を設定することとしたものです。

多くの観光客が訪れる新居関所周辺を観光拠点として位置づけ、市内の観光案内やまちあるきマップの配布などを行うことで、新居地域のみならず、湖西市内のほかの観光施設の周遊につなげる、すなわち点から線、線から面へと広げていき、湖西市全体の観光の活性化を図ってまいります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） ただいまの答弁で、観光拠点、点から線、線から面へ広げていくというお話だったのですが、令和8年度予算案では舟運の便数の増加やコースを検討し、浜名湖全体での周遊につなげるなどとしていますが、新居の関所周辺、そこを観光拠点として、陸路、航路、広げていく、次の観光地、次のスポットへとそうやって人の流れを広

げていくという考えでよろしいのでしょうか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

寺田議員のおっしゃるとおりでございます。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） ぜひ期待しております。

それでもう一つ、新居関所はJRの新居町駅とも近いんですが、先ほどの駅のこともつながると思うんですけど、駅の周辺のにぎわい創出と、この新居関所、ここは連動させる、また誘導する動線、こういったことも一体的ににぎわいの創出につなげるという考えでよろしいのでしょうか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

まず飲食店を出すときに、やはり一番の壁になるのが、やはり出店するときのコストの高さだと思っております。例えば駅前でラーメン屋さんをやりますといったときに、消防の設備ですとか、キッチン関係の投資にきっと多分1,000万円弱とか平気がかかってきてしまいます。ですので、あとはそれこそやはり駅前はどうしても家賃が高くなりますので、そこが日々のランニングコストになってしまいますので、例えばじゃあそこを下げる政策を打ったときに、駅前にどんどんどんどんお店が来てくれる可能性があるのかということもしっかりこれから考えていきたいなと思っております。

ただ、湖西市には鷺津駅、新居町駅、新所原駅と3駅ありますので、じゃあどこにそういう政策を打つと効果があるのかということも含めて、これからしっかり探っていきたいと思います。例えば探った上で、もし新居町駅のところに非常にポテンシャルがあるぞということになれば、そういったお店が出店しやすい環境をつくっていきたいとは考えておりますが、ただ、今そこも含めてこれから調査・研究をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） 特に新居の関所は新居町駅とも近いですので、その期待しております。よろし

くお願いします。

では、最後の質問。

○議長（神谷里枝） はい、どうぞ。

○3番（寺田 悟） 最後の質問であります、
「健康福祉」について伺います。「住み慣れた
地域で安心して医療・福祉支援を受けられる体制づ
くりを進める」「湖西版コミュニティホスピタルの
実現」とありますが、どのような地域医療を目指す
のか、お考えを伺います。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

本市の医療は、医師不足や開業医の高齢化、市外
搬送が3割を超える状況にあり、市内で医療が完結
しにくい構造的課題を抱えております。今後はさら
なる高齢化により慢性疾患や救急需要の増加が見込
まれ、医療需要は一層高まってまいります。

こうした状況を踏まえ、限られた医療資源を前提
とした持続可能な地域完結型医療を目指してまいり
ます。その中核となる湖西病院が目指す「湖西版コ
ミュニティホスピタル」を通じて、高度な救急は広
域連携で確保しつつ、市内で対応可能な救急を確実
に受け止め、回復支援や在宅復帰支援を担う体制を
強化いたします。さらに、在宅医療と介護の連携を
強化し、住み慣れた地域で療養できる体制へ重点を
移してまいります。

今後も広域連携と地域完結機能の両立を図りなが
ら、持続可能な地域医療体制の確立に取り組んでま
いります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） ありがとうございます。地域
完結の医療を目指すということですが、訪問診療を
含む在宅医療の充実を図るということですが、これ
からの超高齢化社会においては、独居の高齢者世帯
も多くなると考えます。その場合、行政や民間の介
護福祉事業者での支援サービスにも限界があると思
います。地域社会との連携がより必要であり、重要
と考えます。高齢者の見守り活動や地域における社
会参加活動など、積極的に進めている地域コミュニ
ティの核である単位老人クラブの協力とか連携強化

を図る、そういった地域との、医療とか介護民間業
者だけでなく、その地域との連携、そういったこと
も図るというようなお考えでよろしいでしょうか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えさせていただきます。

地域との連携というのはとても重要なことだと考
えております。先日もお話を聞かせていただいた上
ノ原の地区では、皆さん、自治会の皆様が中心か、
それとも、ちょっとごめんなさい、ほかに組織をつ
くってやっていたりするのか、すみません、ちょ
っと定かではありませんが、まずは上ノ原の地域の
皆さんが自主的に見守り活動をしていただいていると
いう活動をお伺いをさせていただきました。本当に
ああいった活動はやはり地域の皆様の助けにもなり
ますし、やはり特に高齢者になって独居になります
と、誰かとお話しする機会というのがなかなか足腰
が弱くなって外に出づらくなると話す機会も減って
きますので、やはりああいった活動はすばらしいも
のだと思っておりますし、行政としても支援でき
るところはしっかりと支援をしていきたいと考えてお
ります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） 今、市長の言われた上ノ原の
団体、単位老人クラブの立花会というクラブですけ
ども、大変よく地域のためにいろんなことをやって
いただいて、私もよく知っておりますけど、大変あ
りがたい組織だと思っております。

終わりに、令和8年度の事業では、少数派を切り
捨てることなく、誰一人取り残さず暮らしやすさの
向上と元気なまちの実現を目指し、魅力ある湖西市
を子供たちへつなげるためにも、湖西市が働きに來
るまちではなく、暮らしすまちとして選ばれるように、
幸せ永住都市、湖西になることを強く期待して、私
の一般質問とさせていただきます。どうもありがと
うございました。

○議長（神谷里枝） 以上で3番 寺田 悟議員の
一般質問を終わります。

切りのいいところで暫時休憩を取らせていただき
ます。再開を11時といたします。

午前10時46分 休憩

午前11時00分 再開

○議長（神谷里枝） 休憩を解いて会議を再開いたします。

次に、2番 山本晃子議員の発言を許します。

2番 山本晃子議員。

〔2番 山本晃子登壇〕

○議長（神谷里枝） 山本議員、どうぞ。

○2番（山本晃子） 2番、参政党、山本晃子です。通告に従いまして質問させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

主題、市長施政方針についてです。

質問しようとする背景や経緯です。湖西市の将来を真剣に考える立場から質問させていただきます。

市長は施政方針の中で、「直面している最も重要な課題は人口減少」と述べられております。私はこの認識に大変共感するとともに、その具体的対応策について確認したいと思っております。

現在、湖西市の人口は5万6,706人で、現状推移では2040年に4万7,726人と推計されています。一方、社会増減をゼロとした場合は5万276人となります。これは出生数のように国全体で取り組む課題ではなく、市の施策で影響を与えられる可能性のある分野です。

このような状況を踏まえ、市長が掲げる「魅力ある湖西市を子どもたちへ～次世代へつなぐチャレンジ～」という理念が、単なるスローガンにとどまらず、具体的な将来像と優先順位を伴った政策として進められるかを確認させていただきます。

質問の目的です。湖西市の将来を持続可能な形で次世代へつなぐため、市長が示された施政方針の方向性について、具体性や実現性、優先順位を確認し、市民にとって分かりやすく実効性のある市政運営となることを確認するため質問させていただきます。

では、質問事項に入ります。

○議長（神谷里枝） はい、どうぞ。

○2番（山本晃子） 1番です。社会増減ゼロ、あるいは社会増への転換を目指す上で、最優先で取り組む施策は何とお考えでしょうか。

また、市長が考える「住みたい」「住み続けたい」と思える湖西市とはどのような市でしょうか。教育、子育て、雇用、交通、生活環境なども含め、分かりやすい言葉で教えてください。

○議長（神谷里枝） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） お答えします。

最優先で取り組む施策は、市民意識調査で満足度が低い課題、具体的には公共交通への取組、地域医療に関する取組、空き家対策と宅地供給に関する取組、まちのにぎわいの創出に関する取組でございます。

住みたい・住み続けたいと思える湖西市とは、今の湖西市に対する満足度が人によって異なるため一くくりにはできませんが、市が抱える教育、子育て、交通、地域医療などの課題を解決していくことで、市民の満足度が高い状態になっていることであると考えます。

以上です。

○議長（神谷里枝） 山本議員。

○2番（山本晃子） 少し疑問に感じていることを質問させていただきたいんですが、この市民意識調査の低い部分なんですけれども、にぎわいのあるまちだと思うかどうかという点なんですが、市長が考えるにぎわいのあるまち、元気なまちとは、産業全体が盛んで多くの人々が行き交う活気のあるまちとおっしゃられたと思うんですが、ここがどうも私がイメージがしにくいものですから、もう少しイメージが湧くように、具体的に御説明をお願いできれば、お願いいたします。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

御質問ありがとうございます。より具体的にということでございますが、まずやはりにぎわいのあるまちということは、イコールやはり飲食店ですとか、魅力的な小売店が一定数あるということは私はにぎわいがあると思っております。なおかつばらばらにそこはあるのではなくて、ある程度集積して、バラエティーに富んだ飲食店や小売店が集まっていると

ということが私はにぎわいがあるまちだと思っております。

あとはやはりそのにぎわいがあることをつくるために、人が集まる拠点と拠点をやはり何個かつくるということはとても大事かと思っております、結構人通りがあるというのは、やはり市民の皆様が目的としている箇所が数か所あるので、そこそこを車でつなぐのではなくて、やはり歩いて、例えばです、仮にれんが館がとてにぎわいのある場所だとしたら、れんが館に行った方が、じゃあ例えばそのまま鷺津駅前の、私はちなみにカレーのミテリがとても好きでございますけども、人気のあるカレー屋さんに歩いて行ったりすると、そこで動線が生まれますので、やはりその繰り返しだと思っておりますので、やはりある程度、ですので駅前、鷺津駅前ですとか、新居の関所周辺、新居町の駅、新所原の駅にある程度飲食店とか小売店とかを集積をしていきたいというのはそういうことでございまして、ちょっと答弁になってるのか、ちょっと定かではございませんが、私のイメージしてるにぎわいのあるまちというのは、そういうイメージでございます。

以上です。

○議長（神谷里枝） 山本議員。

○2番（山本晃子） 分かりました。市長のおっしゃるにぎわいのあるまちというのは何となく理解ができて、先ほど同僚議員にもおっしゃられていたJRや関所周辺等の観光地と言われるところが結びつくのかなというふうには思ったんですけども、もともとこのにぎわいのあるまちを市長が改善したいと思われたきっかけというのは、市民意識調査が低かったからということだったと思うんですが。そうしますと、今、私が思っていたにぎわいと、市長が思われていたにぎわいが違うわけなんですね。市民意識調査もあの設問ですとアンケートに答える方ににぎわいの定義というのが物すごく差があるんじゃないかなというふうに私は感じているわけなんです。です、この市民意識調査を基に施策を打つということであれば、もう少し市民意識調査のほうに条件づけをしていただかないと、本当の意味で市民が求めているものが見えてこないのではないかな

というふうにちょっと感じていることをお伝えしたいなと今、思いました。

人口減少を最重要課題と位置づける以上、今申し上げましたように、市民の満足度調査というのは非常に重要で、向上するということは非常に重要な取組であると思います。ただ、人口動態の改善というのは自然に生じるものではなくて、明確な戦略と覚悟がなければ実現というのは難しいのかなと思うんですが、市長はどの層を主なターゲットとして、この人口流入や定着を図ろうとしてるのか、教えていただけますでしょうか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。やはり子育て世帯の流入というのは求めていると思っています。やっぱり住む場所を決めるといときのタイミングとして、やはりお子さんができたときですとか、あとは小学校に上がるときというのは、やはりどこに家を建てようかと考える大きな分岐点でございますので、やはり子育て世帯の社会増というのは求めていると思っています。

あと、やはり人口動態を見ると、これ、湖西市に限った話ではないんですけども、やはり若年女性、20歳から24歳の人口流出が静岡県は、湖西市もそうなんですけども、やはり多くございますので、やはりそういった方々がしっかりと湖西に住んでいただけるような施策というのは打っていきたくて考えております。

以上です。

○議長（神谷里枝） 山本議員。

○2番（山本晃子） 分かりました。主に子育て世帯の流入ということで。

今、若者・女性の流出がというお話があったんですが、先日、ある市民の方に言われたんですが、湖西市内には若い女性が働く場所がないよねというふうに言われたんですが、恐らくそれは伝わってないだけではないかなと私は感じていまして、製造業も女性が働いたり、活躍ができる場というのは非常に多いと思っているんですが、そこがきちんと伝わっていないのではないかなと思ったんですね、その会話から。その方たちというのは、東京にもともと住ん

でいて、湖西にお嫁に来たという方たちだったんですけれども。その方たちが言うには、自分たちの住んでいた東京の周りには工場がなかったと、製造業がなかったの、製造業で働くということがこんなに恵まれた環境で働けるということを知らなかったと言ったんですね。

私、それすごくびっくりしまして、私はもともとここの地元の人間なので、身近なので、そういう意識というのはなかったんですが、都会に暮らしてる方というのは、そういう感覚で製造業を選択するという若い女性が意識がないんだなということに気づかされたんです。その方たちが言うには、知っていたら私たちは製造業に勤めましたというお話だったわけなんですね。ですので、そういったちょっと企業とのミスマッチみたいなものもあると思いますんで、ちょっと話ずれますが、そういった点もぜひお願いできればと思います。

先ほども申し上げましたが、市民満足度の向上というのはすごく重要だなと考えている一方で、人口減少を最重要課題と位置づける以上、やはり人口動態との関係、政策効果の検証については非常に大切なので、そこがずれることのないようにお願いしたいなと思っております。

では、続いて2番に移ります。

○議長（神谷里枝） はい。

○2番（山本晃子） 人口減少局面においては、公共施設の維持管理や更新の在り方が重要な課題となります。将来の人口規模を見据え、教育施設を含む公共施設全体について、総量や配置の在り方をどのような基本的な考えで整理していくのかお伺いいたします。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

私の基本的な考え方は、平成28年度に策定した公共施設再配置基本計画に基づき、公共施設全体の延べ床面積を30年間で20%削減する方針に変更はありません。今後も公共施設の統廃合を進めることにより、健全な財政運営の実現を目指してまいります。

しかしながら、施設の廃止に関しては、市民の皆様からの要望や解体にかかる多額の費用など、様々

な課題がございます。目標達成に向けて、廃止後の建物の解体や土地売却を基本方針としつつ、難しい場合には多用途への転用や建物つき土地の売却、民間への貸付けなど、視野を広げて検討し、公共施設の適正な管理に努めてまいります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 山本議員。

○2番（山本晃子） ありがとうございます。適正な管理に努めていきたいというお気持ちは理解いたしました。

ただ、30年間で20%削減という目標に対して、10年経過した現時点で達成率は5.9%と伺っていますが、この現状の課題についてどのように認識されているのか。また、今後どのように目標達成を図っていくのか、教えていただけますでしょうか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。20%の達成についてでございますが、やはり容易ではないと認識をしているところでございます。なお、この試算には学校施設の削減分は含まれていないため、今後の学校再編の進捗や廃校施設の利活用の在り方によっては計画数値に近づく可能性もあると考えております。

以上です。

○議長（神谷里枝） 山本議員。

○2番（山本晃子） 数値に近づく可能性、あると思うんですが、ちょっと10年経過した段階で5.9%という現実にはちょっと遠いのではないかなと思うんですけれども、私は絵に描いた餅にならないように、実現可能な数値に目標を修正していただいたほうがよいのではないかなという考えなんです。そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） 数値目標の見直しについての御質問ということで承りましたけれども、現時点で具体的な検討というのは行っておりません。一方で、市民の皆様からの存続要望や解体費用の増加など様々な課題がある中で、多用途への転用、建物つき土地の売却、民間への貸付けなど、手法の幅を広げながら取組を進めていく必要があると考えておりま

す。

今後の進捗状況や社会経済情勢の変化によって目標達成が一層困難となる場合には、必要に応じて数値目標の在り方についても検討をしてみたいです。

以上です。

○議長（神谷里枝） 山本議員。

○2番（山本晃子） 分かりました。今後の課題で必要に応じてということは理解いたしました。ぜひ長期的な視点に立って、実行可能な優先順位に沿った計画を進めていただきたいと思います。

では、3番に移ります。

○議長（神谷里枝） はい、どうぞ。

○2番（山本晃子） 3番、市民が安心して暮らすためには、医療や福祉の基盤が不可欠です。少子高齢化が進む中で、地域医療体制や福祉サービスをどのような方向性で維持・充実させていくのか伺います。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えいたします。

医療分野におきましては、慢性疾患の増加や救急搬送の増加など、医療需要の質と量の変化が見込まれ、これに対応するため、高度な医療は広域連携で確保しつつ、市内で担う医療機能を強化する地域完結型医療を構築してまいります。

また、福祉分野におきましては、介護人材の確保や事業所経営が年々厳しさを増しており、今後さらに深刻化することが見込まれます。介護保険サービスは事業所の安定的な運営があってこそ成り立つものであり、市としては、事業所の実情に寄り添いながら、地域全体で支える介護体制の確保に努めてまいります。

市民の安心・安全な生活を支えるため、地域内での医療及び福祉サービスの連携充実を通じて、持続可能な体制を確立してまいりたいと考えています。

以上です。

○議長（神谷里枝） 山本議員。

○2番（山本晃子） 広域連携と地域完結型医療ということと、介護人材の確保が深刻化というお話がありました。ぜひ持続可能な体制の確立、そして湖西市が掲げる「あんきに暮らすまい」という言葉、

介護を受ける方、介護をされる方も、双方にとって安心して暮らしていけるように、ぜひお願いしたいと思います。

では、続いて4番です。

○議長（神谷里枝） はい、どうぞ。

○2番（山本晃子） 大型事業が続く中、財政の健全性をどのように確保していくのかは重要な課題です。将来負担比率や基金残高、公債費負担の水準なども踏まえ、将来世代に過度な負担を残さないために、どのような基準や考え方で財政運営を行っていくのか、長期的な見通しと併せて伺います。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

本市では、財政健全化法に基づく4指標（実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率）を基本的な基準とし、早期健全化基準を上回らないことはもとより、その水準に近づかないよう適切に財政運営をしております。

また、今後の社会保障関係経費の増加や基金残高の推移を複数年度にわたり推計し、将来負担のピークや基金残高の水準を見極めた上で、大型事業の実施時期や規模を調整しております。

長期的な見通しにつきましては、社会情勢が目まぐるしく変化する中で厳しい状況が想定されますが、歳入の確保と歳出の選択と集中を進めることで、将来世代との負担の公平性を確保し、持続可能な財政運営に努めてまいります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 山本議員。

○2番（山本晃子） ありがとうございます。基準内ということは理解はしております。それと、あと目まぐるしい社会情勢で今後のことがどういう形になるかという点でも少し心配だなと思っているんですが、私自身は単年度収支が赤字となってる状況で、基金が減っているということに関してちょっと心配だなと思っていて、この質問を入れさせていただきました。

市長は1月に行われた市政報告会の中で、市の財政状況をかつかつという形で表現されていたりしました。しかし、市民の皆様には状況が十分伝わ

っていないのではないのかなと感じています。大型事業を進める一方で、例えば学校遊具ですとか、公園の施設など、市民の皆さんにとって身近な修繕が後回しになっている現状があります。今後の財政運営において日常的な維持管理と大型投資のバランスを取っていくのか、どの部分がどのように厳しいのかということを市民の皆さんにも御理解いただく必要があるのではないのかなと私は思っております。これだけの急激な人口減少が目に見えている状況では、今までと同じことをしては人口減少、高齢化に対することというのは非常に難しいのかなと考えております。

希望と同時に危機感を持った行政運営も必要だと思っております、そのためには市民の皆様にも一緒に湖西市の将来を考えていただくことが重要だと私は思っております。かつかつという表現にとどまらず、市民の皆様にも向けた分かりやすい人口推移ですとか、財政等の説明をお願いしたいと考えているんですが、そういった説明の機会を設けていただくことを御検討いただくようなことというのはいかがお考えでしょうか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。広報こさいでは、やはり市の財政状況というのはお示しをしておりますので、その広報こさいで一定程度は市民の皆様にご理解をいただいているのかなと考えております。

また先日、市政報告会を開催をさせていただきましたが、そこでも、もう少し時間が割けたらよかったかなとも思っておりますが、報告をさせていただきました。ただ、山本議員から見て、ちょっとまだまだ足りない、こういうやり方があるんじゃないかという御提案がありましたら、ぜひ教えていただけるとありがたく思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○議長（神谷里枝） 山本議員。

○2番（山本晃子） 分かりました。ちょっと市民の方とお話ししていて、ちょっと御理解が薄いのではないかなというふうに思っているところです。

では、続いて5番に。

○議長（神谷里枝） はい、どうぞ。

○2番（山本晃子） 2040年を見据えたときに、湖西市はどのような湖西市として存在しているとお考えでしょうか。人口規模、産業構造、地域コミュニティの在り方などを含め、持続可能な湖西市像を市民の皆さんに分かりやすい言葉でお示してください。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えいたします。

市といたしましては、第6次湖西市総合計画の基本構想において2040年の湖西市の理想の姿を示しております。本計画の策定に当たり、2019年に市民代表によるワーキンググループで検討し、当時の総合計画審議会で御審議いただきました。市民の皆様の思いが込められた理想の姿でございますので、これを達成することが責務であると認識しております。

具体的に申しますと「安心して暮らすことができるまち」、「結婚・出産・子育ての希望がかなえられ、誰もが活躍できるまち」、「稼ぐ力に満ち、安心して働けるまち」、「新たなつながりを築き、新しいひとの流れがあるまち」を実現し、「ひと」「自然」「業（わざ）」全てのバランスがとれたまちが、2040年の目指す姿としております。

以上です。

○議長（神谷里枝） 山本議員。

○2番（山本晃子） ありがとうございます。書かれているとおり、非常に明るい未来像だと思います。ぜひこの湖西市像を理念や理想で終わらせず、現実のものになることを期待しております。

市長は日頃から親として子供によい教育を受けさせたい、これは親が子を思う共通の願いであると教育の重要性を語られています。教育は未来への投資だと私も考えております。施政方針において掲げられた持続可能なまちづくりは、制度や施設だけで実現するものではないと思います。最終的に地域を支えるのは人です。そして湖西市の未来を担うのは子供たちです。次世代へつなぐチャレンジを市長の強いリーダーシップの下、職員の皆さんや市民の皆さんと一緒に知恵を絞って実行し、魅力ある湖西市を子供たちが必ず実現されることを願って、私の質問

を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（神谷里枝） 以上で2番 山本晃子議員の一般質問を終わります。

○議長（神谷里枝） 次に、14番 竹内祐子議員の発言を許します。

14番 竹内祐子議員。

〔14番 竹内祐子登壇〕

○14番（竹内祐子） 14番 竹内祐子です。本日は市長施政方針についての質問をさせていただきます。

質問しようとする背景や経緯でございます。2月16日、3月定例会において市長より令和8年度の施政方針が述べられました。

市長就任2年目となり、第Ⅱ期実践計画に基づく市政運営の考え方が説明されました。

市長は広聴の場の重要性、市民との対話、市民意識調査等を重視されております。市民の満足度を高めていけば人口は増加していくというお話でした。

また、令和8年度予算の目玉事業の重点施策についての説明もされました。

質問の目的です。市長施政方針の確認をするために行います。

質問事項に入ります。

○議長（神谷里枝） はい。

○14番（竹内祐子） 1、人口減少対策について述べられておりますが、子育て世代の声をどう反映し、子育て支援策の充実や教育環境の整備をどのように展開していくのか伺いたします。

○議長（神谷里枝） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） お答えします。

まず、声の把握につきましては、各種アンケート調査、幼稚園・認定こども園・学校などを通じた意見聴取、また、日常的な窓口対応や子育て支援センターでの相談業務を通じて寄せられる声も重要な施策形成の基礎資料として活用しております。

ただ、やはり声を聞くということに関しましては、先日も市政報告会をさせていただいたのですが、ち

よっとやり方に関しましてはまだまだ課題があるのではないかなと思っております。県議員を経験させていただいて、今、市長をやらせていただいておりますが、やはり直接声を聞くという時間がどうしても日頃の業務で減っておりますので、そこをどうやって聞くのかということは大きな課題だと認識をしておるところでございます。

次に、子育て支援策の充実につきましては、誰もが安心して子供を産み育てることができる環境の整備を基本とし、保護者の就労状況や多様なライフスタイルにも柔軟に対応するよう施策を展開しており、経済的支援、相談支援、保育サービスの充実に取り組んでおります。

教育環境の整備については、児童生徒が安全・安心で快適な環境の下で学習できるよう、施設整備を図ってまいります。

今後につきましても、子育て世代のニーズは時代とともに変化することから、継続的な意見把握と検証を行い、必要な施策の見直しと充実を図ってまいります。そして、子育てするなら湖西市と実感していただけるまちを目指し、総合的かつ計画的に施策を展開してまいります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 分かりました。お忙しい公務の中で、やはり様々なところの調査とか、窓口対応の御意見なんかはどのように報告を受けられて、やはりそこを常にチェックをされているのか、教えていただいていいですか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。やはり一番現場に出る職員がそういった数字ですとか、あとその数字もとても大事なんですけども、やはり対面で子育て世帯とお話しをしてる感覚というのは数字と同じぐらい私はとても大事かと思っておりますので、やはり私が関心のある子育て施策、例えば今、病児・病後児保育はとても大事かと思っておりますので、その担当課の方からしっかりお話を聞いて、それを私の判断の材料にしているところでございます。

以上です。

○議長（神谷里枝） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 現場の声をよく聞いて、それぞれの課題に関してしっかりと向き合っているという姿勢はよく分かりました。

私は、このところでは人口減少対策についてというふうに最初言っているの、ちょっと人口減少対策のことで、昨年もやはり人口減少対策、3月議会でやらせてもらって、そのときに要は学童保育のこと、その当時は岡崎小学校とか新居小学校のほうとかというので施設の充実が図られていて、そういう施設整備は着々と進んでいるのかなと思っていました。でもやはり私の下には、やはり学童のことについての相談事が多いということで、年々本当に仕事をされる女性が増えてきて、未就学までは本当にいろんなところでしっかりと保育をしていただけるものですから、安心して仕事ができるんですけども、小学校に入ると小1ギャップといって、やっぱり学童の問題が起きてきました。

でも、湖西市はすごく増やしてきているので、小学校1年から3年までは取りあえずあまり問題もなく働くことができます。でも、国のほうで方針が変わって、1年から6年生までは学童で見ていただけるという施策に変わっていて、やはり4年生に自分の子になるときに不安だという親御さんの声がやはり上がりますね。そうなってくると、どうしてもやはり学童保育の充実を私はしていかなないと、湖西市が若い女性に選ばれないまちなってしまうのではないかとすごく心配しています。

今までの一般質問の中でも湖西市には製造業が主であって、なかなか女性が選ばれる職も少ないよという話もあったりとか、高校生の意見を聞いても、にぎわいのほうにもつながってしまうけれども、やっぱりあまり魅力的なまちじゃないよというような声がある。そんな中でやはりしっかりと仕事もありながら、結婚して子供も安心して育てられるというような条件に持っていくには、やはり子育て支援の充実、学童保育事業の充実が私は必須なものだと考えているんですけども、今回そのようなことが述べられていなかったんですけど、今後の方針として

どう考えているのか、お伺いします。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。学童保育の、特に4年生以上に課題があるということは本当、私も竹内議員と全く同じ認識でございます。今、子供たちに私も空手の指導に行っておりますが、保護者からもやはり4年生以上に課題があるというお話も聞いているところでございます。やはりそのまずはしっかりと課題、何個かあると思います。例えば、ちょっと何か4年生以上になると、何となく雰囲気的にちょっと預けづらくなっちゃうみたいなことも聞いておりますので、まずはしっかりと課題がどこにあるのかということ把握をして、それに対してしっかりと政策をまた考えてまいりたいと思いますので、竹内議員におきましても、またぜひ市民のお声を教えていただけるとありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（神谷里枝） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） ありがとうございます。やはり4年生の子供さんを預けたいという親は、ちょっとやっぱり自分の子供に自信がない親なんですよね。やっぱりちょっと見てもらいたいというところの部分があるので、やっぱりそういうところのサポートも拡大していただけるとありがたいと思っております。

では、次行きます。

○議長（神谷里枝） はい、どうぞ。

○14番（竹内祐子） 2番の新居関所周辺を観光拠点として位置づけた理由をお伺いいたします。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

新居地域には、歴史的価値を有する新居関所をはじめ、新居弁天海釣り公園や海湖館、関所周辺には古民家カフェなど飲食店や商店も多数あり、観光資源としての潜在能力が高いものと考えております。

本年度、実証実験として湖西地域と新居地域の2か所にまちあるき観光案内所を設置し、来訪者に対してアンケート調査を実施しましたが、県内外から多くの観光客が新居関所を訪れていることが改めて確認できたことから、新居関所周辺に拠点を設定す

ることとしたものです。

以上です。

○議長（神谷里枝） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） よく分かりました。本当に昔からしっかりと観光に取り組んでいるまちですので、関所案内人とか、そういうような観光ガイドさんをされる市民の協力もあるというところで理解できました。

では、3番目に行きます。

○議長（神谷里枝） はい、どうぞ。

○14番（竹内祐子） 実証実験でなく、道の駅に本格的な観光案内所を設置する考えはないか伺いたします。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

道の駅潮見坂は、年間およそ70万人が訪れる市内でも有数の交流施設ですが、主にドライバーの休憩や地域の特産品の販売を目的とした施設であり、その機能に即した運営を行うことが重要であると考えております。

加えて、館内の面積を考えると観光案内所のスペースを取ることは困難であり、現在は、各種観光パンフレットの配架やモニターでの観光動画の投影による情報発信にとどまっておりますが、来年度の実証実験の結果や、今後の観光需要など踏まえ、観光案内機能の拡充について運営事業者とともに研究をしてみたいです。

以上です。

○議長（神谷里枝） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 道の駅はドライバーの休憩が主立っているという説明でありましたが、観光に来ながら、別に湖西に観光に来たという人たちばかりではないと思うので、その観光の途中でドライバーさんが休憩をする、その中で湖西市の観光を案内するには、年間76万人も来てくれている場所で観光案内所があれば、より効率よく、私は市内全体の観光案内ができて、まだ知らなかったこの湖西市にちょこっと寄ってみようかなというような人たちもみえるのではないかなと思うんですね。私たちがよく出かけていっても、道の駅のところの隣には観

光案内所があったりとかしますので、どうなんでしょうかね、そんなことを私は感じているんですけども、いかがですか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。御提案としてはとても興味深いと思っております。なので、あとはなかなかやはり人を置いてやるというと、やはりそれなりのコストという面でかかりますので、例えば、これ、まだ私の何ですか、頭の片隅にある案でございますけれども、例えばオンラインで新居の観光案内所の方と結べるようなシステムを置かせていただいて、例えば白須賀の道の駅に来た観光客のお客様が、何かここら辺で寄れる飲食店とか、何か例えば浜名湖のノリ買えるところないかなとかいったときに、何かポチッと押してオンラインで結べるようにするとか、何かやり方はあると思っておりますので。

ただ、これ今、運営事業者の方に今、道の駅というものは委託をしておりますので、その事業者の皆さんとちょっと何か新しいことでできませんかねということで、しっかりと研究をしてみたいと思いますので、また、ちょっといい御報告ができるように頑張りますので、よろしくお願いいたします。

○議長（神谷里枝） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 分かりました。何にしても湖西市の中で一番人が集まるところは道の駅のところです。それが少しでもきっかけになって、湖西というまちを知っていただければ、私はうれしいかなと思っております。

では、次行きます。

○議長（神谷里枝） はい。

○14番（竹内祐子） 「にぎわい」の創出に向けたJ R 3駅周辺のエリアの価値の向上を目指すと思いますが、駅周辺の価値とはどのようなことで、市長が目指すにぎわいとはどのようなことかをお伺いいたします。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

駅周辺を「魅力的な店舗が集まり、市内外から多くの人が集い、行き交うエリア」にすることが、エ

リア価値の向上であり、私の目指すにぎわいの創出です。

現時点では、残念ながら空き店舗が目立ち、公共空間も十分に活用されているとは言い難い状況です。今年度、エリア価値向上に向けた第一歩として、駅前の公共空間を活用した「ちょこっと夜市」を試行的に開催したところ、来場者、出店者双方から高い評価をいただきました。

来年度は取組をさらに前へ進めるべく、「ちょこっと夜市」の継続的な実施に加え、民間企業による活用も含めたＪＲ３駅の駐輪場在り方の調査・研究、地域おこし協力隊制度を活用した各関係者のハブとなる人材の育成などを行ってまいります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 市長の考えていることも分からないわけではないんですけど、要はそこに来て魅力的な小じやれた店をやってくれる人たちがみえるのか。どちらにしたってやっぱり利益が上がりなればそういう人たちも来ませんよね、やっぱり自分たちも生活していかなければならないので。

駅を使う人たちは学生さんとか、企業に働きにみえる人たちで、シャトルバスが出てて、送迎もしていただけて、「ちょこっと夜市」もやってはいましたけれど、やっぱりちょっと皆さんがそこに立ち止まるという様子もそんなに見られるわけでもなかったし、やっぱりこの駅周辺ににぎわいを持ってくというのは、すごく町なかのにぎわい創出というのはすごい難しい内容なのかなって私は受け止めています。

もうこれだけ郊外で皆さんが生活するスタイルを持っていて、別に駅の周辺でなくても利便性は高まってきているという状況で、市長は民間活用しながらやってみるという、これは試みなので、やらないよりはやったほうがいいと私も思っております。ですので、これがうまくいくようにやるためには、まず手っ取り早いのは、学生さんがやっぱりその駅周辺でたむろできるような、そういう場所があることが一番ちょっとにぎわってるのかなという思いがあるので、何かやはりそういう身近なことからやって

いけるものに研究していったらどうかなと私は思っております。

では、次行きます。

○議長（神谷里枝） ５番目ですね。

○14番（竹内祐子） はい。

地域おこし協力隊制度を活用し、イベントの開催や関係者間の連携強化を進めるとありますけれども、どのような部署で配置を考えているのかお伺いいたします。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

地域おこし協力隊には、「ちょこっと夜市」などのイベントを通じた駅周辺エリアの活性化や、創業者希望者の発掘、空き店舗対策などを担っていただきたいと考えており、所管としては産業振興課になります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 分かりました。この地域おこし協力隊は令和８年度になったら募集をかけていくという段取りでいくと思うんですけども、もしこの地域おこし協力隊に応募する人がなかったら、どんなふうにやっていかれるのでしょうか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。地域おこし協力隊が見つからなかった場合にはということで御質問いただきましたが、よい人材を採用できるように、担当課が採用に向けて県の研修を受けるなど準備を進めております。応募がたとえあったとしても、市が求める人材でなければ採用しないという可能性もあります。何か採用ありきになってはいけないと考えております。ミッション内容や組織体制など、協力隊に興味がある方とのミスマッチが発生しないように進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（神谷里枝） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 分かりました。なぜこれ言ったのかというと、どこの市町でも地域おこし協力隊を募集して、こうやっていきたいというのが、今、

新年度予算のことでいっぱい出てるので、同じことを皆さん、やられてるんですね。多分、年度始まればみんなそのようなことが進められていくので、地域おこし協力隊に依存しなくてもできる体制を整えていかないと、もう新年度事業は進んでいきますので、そこのところを職員の皆様、しっかりとやっていただきたいなという思いです。

では、6 番目、行きます。

○議長（神谷里枝） はい、どうぞ。

○14番（竹内祐子） 動画で湖西の魅力を発信するシティプロモーション事業は今も行っていると思いますが、どう湖西の魅力をアップさせるのか伺います。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えします。

一般的にPR動画は、市の概要や特色を広く紹介するものであり、情報提供を主な目的とするものがあります。一方、シティプロモーション動画は、届けたい相手を明確に設定し、その層の関心や価値観に即した内容とすることで、認知や共感、さらには具体的な行動へとつなげていくことを目的とする戦略的な情報発信であります。

現在、湖西市PR動画はありますが、ターゲットや目的を明確に定めたシティプロモーションとしての動画は、これまで制作しておりません。今回の取組は、単なる市の紹介にとどまらず、誰に届けるのかを明確にした戦略的な発信へと発展させるものです。主なターゲットは市外在住者、とりわけ子育て世代や働く世代とし、農・水産物やグルメ、体験資源などの「食」をテーマとした本市の魅力を具体的に想起できる内容とすることを考えております。

認知度の向上のステップは「知る」「解る」「来る」の3段階であります。まず湖西市の存在や魅力を知っていただき、次に地域の価値や思いを理解・共感していただくことで関心を深めていただきます。その上で、実際に訪れる、「湖西市に住みたい」と思っただくなどの具体的な行動へとつなげていくことを重視しております。

また、SNSとの連動により拡散力を高めるとともに、視聴状況や反応を分析しながら内容を磨き上

げていくことで、より効果的なシティプロモーションへと発展させてまいります。

戦略性を持った動画発信を展開し、本市の魅力をより広く届けていきます。

以上です。

○議長（神谷里枝） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 分かりました。しっかりと誰に届けるか、目的を持ってやっていくという内容でした。私は常々、今って一般市民というか、普通の人って言うていいのかどうかよく分からないんだけど、学生さんでもみんな、結構いろんなものを動画で上げてて、何ていうの、魅力というか、私の知らないこと、食べ物とかそういうのも教えてくれるんですね。そう思うと、湖西市の中でもそういうことを得意としている人もいるし、結構写真アップしてたりとか、湖西のこんなところがすてきだよとかという人も見られるので。

私はですよ、シティプロモーション事業もいいかもしれないけど、湖西市の人が一番湖西市を自慢したいとか、したいものってあると思うんですよね。あるからきつと、みんな個人的にそういうふうにSNSで上げてきてると思うんですよ。だから万が一ですけど、やっぱり市民に湖西の魅力をアピールしてくれるための動画作成をしてもらえませんか、例えばさっき言った食べ物の部門とか、ところの部門か、いろいろあると思うんですけど、そういうふうにジャンル別に分けて、やっぱり賞金を出して何かそういうのにすると意外と隠れたそういう引きつけるようなものが出てくるような気がするんですね。やっぱり市民、市全体で盛り上げるという施策にしていかないと、市が勝手にやってるというふうに見られてしまうし、例えば湖西を離れた人たちが見ていて、湖西ってこんないいところだから行こうよとかという声もかけられてくるとかというようになると思うので。何か業者さんばっかりに頼らず、やはり市民の力を借りるというのも1つの手ではないかなと私は考えていますが、どうでしょうか。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えさせていただきます。

竹内議員、御提案をいただきましたが、とてもい

い御提案だと思っております。結構あまり知られてないかもしれないですけども、「食」をPRするのに物すごくたけてる市民の方がひょっとしたらいらっしゃるかもしれないので、そういった方の発掘も含めて、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

○議長（神谷里枝） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） お願いいたします。

それでは最後の質問に移ります。

○議長（神谷里枝） はい、最後ですね。

○14番（竹内祐子） 財政運営については、限られた財源を最大限に活用し、施策の優先順位を慎重に見極めていくとありますけれども、優先順位はどう決めるのかお伺いいたします。

○議長（神谷里枝） 市長。

○市長（田内浩之） お答えさせていただきます。

財政運営の優先順位は、義務的経費である扶助費と公債費を確実に確保することを前提といたします。その上で、防災や老朽化に伴う施設更新など、市民の生命・安全や日常生活を支える施策を優先いたします。

さらに、将来への必要な投資については、緊急性・費用対効果・将来世代への負担などを総合的に勘案し判断してまいります。

選択と集中を徹底し、限られた財源を最大限に活用してまいります。

以上です。

○議長（神谷里枝） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） よく分かりました。何にしても歳入に見合った歳出構造にしていかなければいけませんので、もうそんなのは基本の基本ですので、重々職員の皆様は御存じかと思います。やはり各部署での連携、何が優先していったらいいかをしっかりと幹部の皆様は御検討いただいて、湖西市が今後ますます発展していくように私は期待したいと思います。

以上で終わります。

○議長（神谷里枝） 以上で14番 竹内祐子議員の一般質問を終わります。

これをもって、3月定例会に予定しております一般質問を終わります。

○議長（神谷里枝） 以上で本日の日程は終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでございました。

午前11時55分 散会
